



会社名 武田薬品工業株式会社
代表者 代表取締役社長 長谷川閑史
(コード番号 4502 東証第1部)
報道関係問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部
Tel 03-3278-2037

News Release

2013 年 5 月 9 日

2013 年度を起点とした中期成長戦略の策定について ～「New Takeda」としての新たなスタート～

当社は、このたび、ナイコメッド社統合後の新たなタケダ (New Takeda) が目指す 2020 年の姿を示した「ビジョン 2020」を策定し、その実現に向けて、2013 年度を起点とする中期成長戦略をスタートさせました。

ビジョン 2020 は、「Better Health, Brighter Future」をキーマッセージとして、「Our Business: すべては人々の健康のために」「Our Organization: ダイバーシティを力に」「Our People: 情熱を原動力に」の 3 つの要素から成り、当社が目指す事業の目標を、「革新的な新薬、高品質なブランドジェネリック医薬品、ワクチン、OTC 医薬品をお届けすることで、少しでも早く、少しでも多くの人々の願いに応えていく」こととしています。当社はビジョン 2020 の実現に向け、今般策定した新たな中期成長戦略を、経営陣が、世界中に広がる 30,000 人の多様な従業員と一体となって推進することで、引き続き、グローバル製薬企業として更なる飛躍に挑戦してまいります。

当社は、2010 年度から始まった 3 カ年の中期ローリング計画期間において、販売面では、新興国に強固な事業基盤を有するナイコメッド社を買収し、グローバルに販路を拡大するとともに、製品ラインアップの多様化を大きく進展させ、研究開発面では、競争力のある新製品の承認取得と後期開発パイプラインの拡充を着実に進めるなど、一定の成果を収めました。しかしながら、先進国での財政再建を背景とする医療費抑制策の強化、日本市場での想定以上の後発医薬品の浸透などにより、世界の医薬品市場はますます厳しさを増しています。当社は、このグローバルで変化し続ける市場において持続的成長をより確かなものとするために、これまでの戦略を深化・発展させた中期成長戦略を策定しました。

本中期成長戦略において、当社は、新興国と先進国にわたるグローバルな事業展開、および、サイエンスとビジネスプロセスのイノベーション創出に注力します。新興国事業については、高品質なブランドジェネリック医薬品・OTC 医薬品を展開することに加え、中長期には当社の新製品を販路に乗せていくことで同事業を成長ドライバーとして位置づけます。先進国事業については、既存品から新製品を中心とした事業構造への転換を、スピードを上げて進めます。サイエンスのイノベーションについては、医療ニーズが未だ十分に満たされない疾患領域およびワクチンにリソースを重点配分し、世界中の人々が待ち望む革新的な新薬・ワクチンの創出に、引き続き、挑戦してまいります。さらに、販売・製造・研究開発・管理などのあらゆる機能においてビジネスプロセスのイノベーションに全社を挙げて取り組むことで、グローバル製薬企業に相応しい強靱かつ効率的なオペレーティングモデルへの変革を実現し、世界市場での競争力を一層高めてまいります。

当社は、今年、創業 232 周年を迎えます。これまで長年に亘って培ってきた「タケダイズム (誠実: 公正・正直・不屈)」を事業の根幹に据え、異なる背景や価値観を持つ多様な人材が、ビジョン 2020 を共有することで同じ方向に向かい、本中期成長戦略を全社一丸となって完遂します。当社は、今後も引き続き、法令を遵守し、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」というミッションの実現に向けて事業活動を推進してまいります。

なお、2013 年度を起点とした中期成長戦略の概要は、下記の通りです。

1. 2013 年度の業績予想 ^{a)}

売上高	15,900 億円
研究開発費	3,250 億円
営業利益	1,400 億円
営業利益(特殊要因 ^{b)} 除き)	2,800 億円
当期純利益	950 億円
当期純利益(特別損益・特殊要因 ^{c)} 除き)	1,850 億円
EPS	120.34 円
EPS(特別損益・特殊要因 ^{c)} 除き)	234.34 円
EBITDA(特別損益除き) ^{d)}	3,400 億円

^{a)} 2013 年度の為替レートは、1 米ドル=90 円、1 ユーロ=120 円を前提としています。

^{b)} 営業利益に係る特殊要因: 企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費および棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化

^{c)} 純利益、EPS に係る特殊要因: ^{b)} に加え、企業買収に起因する営業外費用

^{d)} EBITDA(特別損益除き): 経常利益に、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費と営業外費用、減価償却費および支払利息を加えて計算しています。

2. 中期成長戦略期間における持続的成長目標

	経営指標		目標
成長性	売上高	2013-2017 年度 年平均成長率	1 桁台半ばの成長 [*]
効率性	営業利益	2013-2017 年度 年平均成長率	20%以上の成長 [*]
株主還元	一株当たり配当金	2013-2015 年度	年間 180 円を維持

^{*} ポテンシャルの高い自社パイプラインが 2015 年度以降に収益に貢献

3. 中期成長戦略の基本戦略

<Globalization>

● 新興国市場

ロシア・ブラジル・中国を中心に、ブランドジェネリック医薬品や OTC 医薬品など、既存品の売上を最大化するとともに、市場ニーズに合致した多様な新製品の上市および市場浸透を着実に進め、投資効率を追求した販売戦略を実行することで、市場の伸びを上回る成長と収益の改善を実現します。

● 日本市場

戦略製品である糖尿病治療剤「ネシーナ」ファミリー、高血圧症治療剤「アジルバ」、高脂血症治療剤「ロトリガ」の売上最大化に注力し、既存品から新製品への切り替えを図るとともに、今後承認が見込まれる新製品の市場浸透を成功させるコマーシャルモデルを構築することで、引き続き、国内 No.1 シェアを堅持します。

● 米国市場

新製品である糖尿病治療剤「ネシーナ」ファミリーの早期市場浸透、痛風治療剤「コルクリス」と高尿酸血症治療剤「ユーロリック」のシナジー追求、逆流性食道炎治療剤「デクスラント」の売上最大化に加え、マーケティング費用の最適化を追求した販売モデルの構築を推進します。さらに、今後承認が見込まれる新製品の市場導入を加速する最適な販売戦略を立案・実行することで、将来の成長を実現します。

● 欧州市場

既存品の売上を維持・拡大するとともに、癌領域を含む新製品の早期市場浸透に注力することで、プライマリケア事業とスペシャリティケア事業を強化し、厳しい市場環境の中でも高い収益性と持続的成長を実現する事業体制を整備します。

<Diversity>

様々な国の異なる背景や価値観を持つ多様な人材がお互いを尊重し、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、継続して創造的な思考を生み出す企業文化を醸成します。

<Innovation>

● 重点領域における競争力のあるパイプラインの構築

「代謝性・循環器系疾患」「癌」「中枢神経系疾患」「免疫・呼吸器系疾患」「消化器・腎臓系・その他疾患」「ワクチン」の6つの重点領域において、引き続き、医療ニーズが未だ十分に満たされない疾患領域の新薬およびワクチンの研究開発を推進するとともに、領域を跨る新たな価値を創造し、競争力のあるパイプラインを構築します。

● 研究開発生産性の向上

後期開発パイプラインの確実な承認取得を実現するとともに、上市後の臨床試験実施による各製品の価値最大化に取り組みます。さらに、有望なパイプラインの臨床開発期間の短縮、既存化合物の応用機会の追求、有望な化合物の獲得を進めることで、開発パイプラインを拡充します。また、湘南研究所におけるDDU^{*}体制の強化、新薬候補化合物の研究プロセスの改善、エンボイ社やアドビナス社の専門性活用を通じて、引き続き、創薬研究の生産性向上を目指します。

^{*}DDU: Drug Discovery Unit

● 効率的なオペレーティングモデルへの転換

グローバルでブランドマーケティングを推進するとともに、グローバルからローカルまで販売活動を効率化することでマーケティングオペレーションの最適化を図ります。また、旧ナイコメッド社のインフラ・機能を有効に活用し、製造ネットワークの最適化とグローバルでの原材料調達を進め、生産関連のオペレーションを効率化します。さらに、財務・IT・人事などの一般管理機能および管理プロセスをグローバルで標準化することで効率的なオペレーションを推進します。

4. 財務および株主還元方針

当社は、運転資本の圧縮やキャッシュマネジメントの強化を含めたバランスシートの最適化を推進することでより一層の資金効率の向上に取り組み、継続的な成長投資と着実な有利子負債の返済および柔軟な財務戦略を立案・実行することで、中期成長戦略の遂行を支える健全で強固な財務基盤の維持・強化に努めます。

株主還元策については、中長期的な視点に立ち、株主還元重視の姿勢のもと「安定的な配当」に努めます。なお、1株当たり配当金については2013年度から2015年度まで年間180円を継続する方針です。

「2013年度を起点とした中期成長戦略」等に関する詳しい内容については、当社ホームページに掲載される関連資料をご覧ください。

- ・本決算情報 <http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>
- ・トップメッセージ <http://www.takeda.co.jp/company/message/>

以上